



中津城の歴史

中津城は福岡県との県境を形成する山国川の支流中津川の河口沿いに位置します。北は海、西は川に面した要衝の地であり、堀の水かさは潮の干満で上下します。東は二重、南は三重の堀を有し、外堀には「おかせい」と呼ばれる土壁をめぐらせていました。

1587(天正15年)、豊臣秀吉は九州を支配下に入れ、黒田孝高として、中津城の築城を行います。中津城は九州最古の近世城郭の一つで、築城当初の石垣を見ることができます。

1600(慶長5年)、鍋島忠貞が入城し、中津城に息子の忠利を入れました。忠利は1603年から1620年にかけて中津城の増改築を行いました。1615年(元和元年)「一国一城令」により、破却の危機に瀕しましたが、忠興の尽力により意外に中津城は残ることができました。1620年、忠興は隠居して三斎と号し、中津城に入ります。三斎の隠居として修復・完成した中津城には、本丸、二の丸、三の丸と8門、22の櫓が設けられ、現在の形がほぼ整いました。

1632(寛永9年)、小笠原長次が入城します。小笠原時代には、細川氏以降すみれられた御水道や城下町の整備がほぼ整い、現在でもその町割りが残っています。

1717(享保2年)に奥平昌成が入城し、以後1871(明治4年)の藩置廃によって廃城するまで、中津城は中津藩主の居城として存続しました。

藩置廃後は、堀の多くは埋められ、本丸跡と三の丸跡の堀の石垣は道路建設に伴い一部取り壊されました。1877(明治10年)には、西南の戦により蜂起した中津隊の襲撃にあり、中津支庁として利用されていた「松の御殿」が焼失するなど、城内の風景は変わってきました。昭和に入ると中津城天守閣建築の機運が高まり、1964(昭和39年)に現在の模擬天守閣が建設されました。

2001(平成13年)、中津市では、城内の石垣調査および発掘調査をスタートさせ石垣改修工事を着手しました。調査の結果、多くのことが判明しました。2008(平成20年)に工事は一旦終了していますが、今後も調査を継続していく予定です。

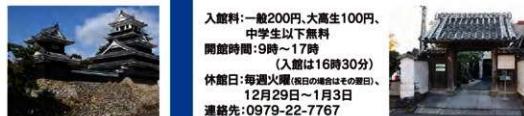
中津城の年譜

領主	西暦	和暦	事 項
黒田孝高	1587年 (天正15)		黒田孝高、豊前6郡の領主として入城。
黒田孝高	1588年 (天正16)		黒田孝高、丸山城を修繕し中津城に遷城を開始。
細川忠利	1600年 (慶長5)		細川忠利、中津城の増改築を開始。
細川忠利	1603年 (慶長8)	~1620年 (元和6)	西門を含む三の丸が完成。
細川忠利	1607年 (慶長12)		忠臣氏滅亡、一國一城令。豊前國のうち小倉城以外に中津城は残る。
細川忠利	1615年 (元和元)		忠興は隠居、中津城へ入城。細川時代の中津城整備完成。
細川忠利	1620年 (元和6)		忠興は隠居、中津城へ入城。細川時代の中津城整備完成。
小笠原長次	1632年 (寛永9)		小笠原長次が中津の領主として入城。
小笠原長次	1652年 (承応元)		中津城下の整備がほぼ終了。(御水道の整備や現在の町割りが整う)
奥平昌成	1683年 (天和3)		城内、椎の鬱蒼を行う。
奥平昌成	1686年 (貞享3)		城内上層の寅殿・櫓で火事。
奥平昌成	1717年 (享保2)		煙硝の爆発により鉄門付近の二重櫓が火事。
奥平昌成	1737年 (元文2)		武蔵屋焼失。
奥平昌成	1813年 (文化10)		本丸で火事。
奥平昌成	1844年 (弘化元)		城に「松の御殿」築く。
奥平昌成	1863年 (文久3)		西門付近「御道橋」焼失。
奥平昌成	1869年 (明治2)		馬鹿園廻原により、中津城廃城。
奥平昌成	1871年 (明治4)		中津隊の裏諭により「松の御殿」焼失。
奥平昌成	1877年 (明治10)		中津大神宮創建。
奥平昌成	1878年 (明治11)		現在地に奥平神社を祀る。
奥平昌成	1879年 (明治12)		松の御殿跡に中津城天守閣設立。
奥平昌成	1883年 (明治16)		公園地内に独立自重の碑建立。
奥平昌成	1904年 (明治37)		現在の中津城天守閣建設。
奥平昌成	1964年 (昭和39)		中津市指定史跡に指定。
奥平昌成	1981年 (昭和56)		中津城石垣調査、城内発掘調査開始。
奥平昌成	2001年 (平成13)		中津城石垣修理工事一時終了。
奥平昌成	2008年 (平成20)		石垣修理工事一時終了。

中津城 攻略マップ

発行 中津市教育委員会

⑦中津市歴史民俗資料館
江戸時代後期の中津藩御典医・中津家の歴代門が門として現存。平成22年に市の常設展示室としてリニューアルオープンし、洋画家・中山忠彦画伯を始め、中津にゆかりのある作家の美術資料を展示・収蔵している。



①中津城天守閣

現在の中津城天守閣は、奥平家により市民の協力のもと昭和39年に建設された。天守閣の内部では、徳川家康より挙頭した白鳥の鶴の頭と、長安台戦図、歴代藩主の額など奥平家の宝物類、その他古絵図や古文書などを展示している。

入館料: 大人個人400円、
高校生個人200円、
小・中学生個人150円
開館時間: 9時~17時
休館日: 無休
連絡先: 0979-22-3651

②中津城内の神社

①奥平神社・中津藩主の奥平氏の祖・美作守貞能、美作守信昌、大膳大夫家康の三公を祀る。
②中津大神宮...1878(明治11年)、伊勢太郎神宮の御分靈を祀り開基。

③城井神社...1588(天正16年)黒田氏に隸属された宇都宮御廟所を祀る。境内末社の廟神社には義姫の御子を祀る。
④金比羅宮...海上交通の守護神として供養。

⑤中津神社...新魚町の六所神、諸町の恩田神社などを合祀し、1883(明治16年)に創建。城内下段の松の御殿跡に鎮座。

⑥蓮葉園(ぼうらいえん)
もとは1882(明治15年)に建築された劇場「蓮葉園」があり、歌舞役者たちが競う興行で多くの観客を来させていた。戦中の強制疎開により、建物は取り壊しにあつたが、戦後に現在の庭園として整備された。敷地内に新たに建てられた蓮葉園では、食事もできることができる。

入館料: 無料
入館時間: 10時~18時
定休日: 毎週火曜日(例の場合はその翌日)、12月29日~31日
連絡先: 0979-22-0538

③蓮葉園(ぼうらいえん)

もとは1882(明治15年)に建築された劇場「蓮葉園」があり、歌舞役者たちが競う興行で多くの観客を来させていた。戦中の強制疎開により、建物は取り壊しにあつたが、戦後に現在の庭園として整備された。敷地内に新たに建てられた蓮葉園では、食事もできることができる。

入館料: 無料
入館時間: 10時~18時
定休日: 毎週火曜日(例の場合はその翌日)、12月29日~31日
連絡先: 0979-22-0538

④中津市木村記念美術館

江戸時代後期の中津藩御典医・中津家の歴代門が門として現存。平成22年に市の常設展示室としてリニューアルオープンし、洋画家・中山忠彦画伯を始め、中津にゆかりのある作家の美術資料を展示・収蔵している。

入館料: 一般200円、大學生100円、
中学生以下無料
開館時間: 9時~17時
(入館は16時30分)
休館日: 毎週火曜日(例の場合はその翌日)、12月29日~1月3日
連絡先: 0979-22-7767

⑤自性寺・大雅堂

自性寺は奥平家庶流の善徳寺であり、1711(享保2年)6代藩主昌昌の中津藩封に伴い新魚町に移り、建てられた。宝嚴院年に遷在した。南画の大師・池大翁が書院の構に描いた県指定有形文化財の書画46点を中心として展示している。敷地内には県指定史跡の中津城おかせい山がある。

<大雅堂>
観覧料: 大学生以上個人500円、
小・中・高校生個人300円
開館時間: 9時~17時
休館日: 無休
連絡先: 0979-22-4317

⑥村上家史料館

村上家は、初代・宗伯が1640(寛永17年)に諸町に医院を開業して以来、代々中津藩の御典医を務めた家柄で、現在も医家の家系が継続。2006(文政9年)既存の旧医院を利用し医家史料館を開館。当時の医療器具そのままで、参観歩道で用いられた薬庫や薬箱、7代玄孫が行った人体解剖の記録などを展示している。

入館料: 一般210円、大學生100円、
中学生以下無料
開館時間: 9時~17時
(入館は16時30分)
休館日: 每週火曜日(例の場合はその翌日)、12月28日~1月3日
連絡先: 0979-23-5120

⑦福澤諭吉旧居

慶應義塾大字創設者である福澤諭吉が、19歳で長崎に遊学するまで過ごした旧宅が残る。庭には諭吉自らが改築・勉学に励んだ土蔵を見ることができる。隣接する記念館では、諭吉の足跡を紹介している。

入館料: 高校生以上個人400円、中学生以下個人200円
開館時間: 9時30分~17時
休館日: 12月31日
連絡先: 0979-25-0063

⑧大江医家史料館

大江家は初代玄蕃以来、中津藩主の御典医を務めた。大江家の旧宅を利用し医家史料館として開館。有名な解体新書や華岡流の医学書、中津藩の種痘関係資料などを展示している。敷地内に薬草園では、一年中珍しい薬草を見ることができる。

入館料: 一般210円、大學生100円、中学生以下無料
薬草園料
開館時間: 9時~17時
(入館は16時30分)
休館日: 每週火曜日(例の場合はその翌日)、12月28日~1月3日
連絡先: 0979-22-0049

⑨福澤諭吉旧居

慶應義塾大字創設者である福澤諭吉が、19歳で長崎に遊学するまで過ごした旧宅が残る。庭には諭吉自らが改築・勉学に励んだ土蔵を見ることができる。隣接する記念館では、諭吉の足跡を紹介している。

入館料: 高校生以上個人400円、中学生以下個人200円
開館時間: 9時30分~17時
休館日: 12月31日
連絡先: 0979-25-0063

中津城の中心部を攻略！

本丸内の建物配置図(幕末のころ)
(中津城天守閣所蔵絵図の一部)



川を自然の要塞とした中津城を眺めるには対岸の小堀からの眺望がおすすめ。



⑩工事中に発見された城内側の石垣には、階段があった。一番上の段は角塔婆といふ墓石を横たえて踏み段にしている。三角の頭と水平の刻線が特徴。



⑪大鳥居西側の石垣断面では城内側に石垣が継ぎ足された様子がわかる。



⑫堀に張り出した出角の石垣が最も天正時代の特徴を持っている。「反らない」「加工した石を使わない」のが特徴。

九州最古の近世城郭の石垣を見るならココ！



⑬石垣に登って、反対側をみてみよう。通路をはさんだ石垣が東西方向に緩やかなカーブを描いている(輪どり)のがわかる。力を内側に集中させて崩れにくくする技法。

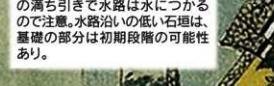


⑭南部小学校は家老の生田家の邸敷地の北側にあった生田家の門は西側に移築され、小学校の正門となっている。



⑮堀底は斜めに傾斜する。出角では石垣に垂書きに松の觸木が差し込まれている。

⑯石垣の水を落とすと、梵字を刻んだ石が現れる。



⑰小倉口 中津城に入る6つの木戸口の一つ。小倉側に通じる橋が架かっていた。現在はコンクリートの橋だが、幕末の絵図では、太鼓橋が描かれている。橋から南側を見ると跡跡の面影が残る。

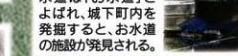
⑱西門石垣にはかつて「慶長12年9月」の文字が刻まれていた。上段は積みなおされている。矢穴のある割り石を多く使用。



⑲土手上に、近年白壁がつくられた。その屋根瓦が接着している石垣の石が古代山城の石垣である。一辺が切り落とされており、これを目印に同じ石を探してみよう。



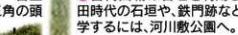
⑳石垣にy字状に目地がとおり、西側が最初に築かれた黒田の石垣で、東側が細川の石垣。黒田の石垣は古代山城の石の再利用のため四角い。



㉑細川三斎(忠興)は三口の井堰から上水道を城内に引き込んだ。防火用水としても使用された。土道は三斎になんて三斎池といつ。上水道は「お水道」とよばれ、城下町内を発掘すると、お水道の施設が発見される。



㉒複数の中津城絵図には、鐵門横の檜台に最も高い(三層)檜が描かれている。天守閣があったとすればこの場所が候補地である。



㉓古代山城の石垣を利用した黒田時代の石垣や、鐵門跡などを見学するには、河川敷公園へ。



㉔河川敷公園



㉕鐵門跡



㉖櫻木門跡



㉗横櫛天守閣



㉘上段



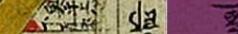
㉙下段



㉚椎ノ木門



㉛椎ノ木門跡



㉜水門跡



㉝西門跡



㉞大手門跡



㉟黒門跡



㉟三の丁駐車場



㉟中津カットラック教会



㉟南部公民館



㉟大手門



㉟南部小学校



㉟小学校の東と南側の溝は堀の跡。

㉑写真は、かつての北門櫓の石垣。川沿いの石垣は今では土手に埋められ見えなくなっている。



㉒北門跡



㉓竹下



㉔奥平篠門



㉕櫻木門跡



㉖天守閣



㉗奥平篠門



㉘裁判所



㉙椎研堀



㉚石を割る位置を変更したため、表面に残った矢穴。他の場所にも見ることができる。



㉛椎ノ木門



㉜椎ノ木門跡



㉝水門跡



㉞西門跡



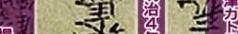
㉟大手門跡



㉟黒門跡



㉟三の丁駐車場



㉟中津カットラック教会



㉟南部公民館



㉟大手門



㉟南部小学校



㉟小学校の東と南側の溝は堀の跡。

㉑本丸内は、土地が高い上段と低い下段にわかっている。上段は藩主の御殿や大奥、下段は政殿や能舞台、家来の部屋などがあった。

㉒石垣にy字状に目地がとおり、西側が最初に築かれた黒田の石垣が、東側が細川の石垣。黒田の石垣は古代山城の石の再利用のため四角い。

㉓細川三斎(忠興)は三口の井堰から上水道を城内に引き込んだ。防火用水としても使用された。土道は三斎になんて三斎池といつ。上水道は「お水道」とよばれ、城下町内を発掘すると、お水道の施設が発見される。

㉔複数の中津城絵図には、鐵門横の檜台に最も高い(三層)檜が描かれている。天守閣があったとすればこの場所が候補地である。

㉕古代山城の石垣を利用した黒田時代の石垣や、鐵門跡などを見学するには、河川敷公園へ。

㉖河川敷公園

㉗鐵門跡

㉘上段

㉙下段

㉚椎ノ木門

㉛椎ノ木門跡

㉝水門跡

㉞西門跡

㉟大手門跡

㉟黒門跡

㉟三の丁駐車場

㉟中津カットラック教会

㉟南部公民館

㉟大手門

㉟南部小学校

㉟小学校の東と南側の溝は堀の跡。

㉑土手上に、近年白壁がつくられた。その屋根瓦が接着している石垣の石が古代山城の石垣である。一辺が切り落とされており、これを目印に同じ石を探してみよう。

㉒石垣にy字状に目地がとおり、西側が最初に築かれた黒田の石垣が、東側が細川の石垣。黒田の石垣は古代山城の石の再利用のため四角い。

㉓写真は、かつての北門櫓の石垣。川沿いの石垣は今では土手に埋められ見えなくなっている。

㉔北門跡

㉕竹下

㉖奥平篠門

㉗大手門跡

㉘天守閣

㉙武家屋敷跡

㉚武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉛武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉜武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉝武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉞武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉟武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉑土手上に、近年白壁がつくられた。その屋根瓦が接着している石垣の石が古代山城の石垣である。一辺が切り落とされており、これを目印に同じ石を探してみよう。

㉒石垣にy字状に目地がとおり、西側が最初に築かれた黒田の石垣が、東側が細川の石垣。黒田の石垣は古代山城の石の再利用のため四角い。

㉓写真は、かつての北門櫓の石垣。川沿いの石垣は今では土手に埋められ見えなくなっている。

㉔北門跡

㉕竹下

㉖奥平篠門

㉗大手門跡

㉘天守閣

㉙武家屋敷跡

㉚武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉛武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉜武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉝武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉞武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉟武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉑土手上に、近年白壁がつくられた。その屋根瓦が接着している石垣の石が古代山城の石垣である。一辺が切り落とされており、これを目印に同じ石を探してみよう。

㉒石垣にy字状に目地がとおり、西側が最初に築かれた黒田の石垣が、東側が細川の石垣。黒田の石垣は古代山城の石の再利用のため四角い。

㉓写真は、かつての北門櫓の石垣。川沿いの石垣は今では土手に埋められ見えなくなっている。

㉔北門跡

㉕竹下

㉖奥平篠門

㉗大手門跡

㉘天守閣

㉙武家屋敷跡

㉚武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉛武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉜武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉝武家屋敷跡の基礎を保存して整備している。

㉞武家屋敷跡の基礎を保存して整備している